

*RIKプログラム (Royalty-in-Kindプログラム)
米国では、民間会社が連邦政府所有の領域をリースする場合、生産原油・ガスのある一定率をロイヤリティとして政府に納めることが法律で決められている。1990年代終わり、このロイヤリティを現金ではなく原油として納めるシステム (Royalty-in-Kindプログラム) が導入された。RIKによる原油は、競争入札によって決定した石油会社に売却される (表1. ②)。

また、SPRの積み増しを実施するにあたっては、RIK原油を売却せずにSPR基地に納入する方法が99年初めクリントン大統領によって本格的に導入された (表1. ①)。米国政府は、この方法は原油価格レベルに係わらず納税資産を最大限に活用することができ、政府側にとっては原油購入のための予算要求の必要がなく会計

コストが削減される。また企業側にも原油での納入となり効率的なものであるとして推進、今回もこの方法が採用された。2002年4月から、RIKプログラムによる7億bblに向けた積み増しがスタートし、2002年末から4月までベネズエラやナイジェリアの原油輸出低下により一時中止したが、5月に再開されている。

脚注

1. ただし、メキシコ湾生産者から直接RIKをSPRに納入する場合もある。
2. Oil Daily 2003/8/14
3. Houston Chronicle 2003/8/6
4. OGJ 2003/8/25

(担当：小田 路子)

サウジアラビア・ロシア石油・天然ガス協力合意

1. Abdulla皇太子とPutin大統領の首脳会談で、石油・天然ガス分野での協力を合意。
2. 原油生産量1・2位の両国が市場安定へ向けての協調を打ち出したことは画期的といえるが、原油市場への具体的影響は少ないと見られる。むしろ、対米関係に関わる政治的意味合いが濃厚との見方が強い。サウジでの事業展開を目指すロシア企業には追い風となろう。

1. 首脳会談で協力協定に合意

サウジアラビアのAbdulla皇太子は2003年9月2日、公式訪問先のロシアでPutin大統領と会談を行い、石油・天然ガス分野で両国が協力関係を推進していくことで合意した。同日、両首脳立会いのもと、Naimiサウジ石油相とYusufovロシア・エネルギー相が協力協定に調印した。両国は、世界の石油市場の安定化 (適正油価の維持) に向けての協調、両国の石油・ガス分野での投資協力・技術協力について合意したと伝えられている。

サウジ首脳ロシア訪問は、1932年のSaud皇太子 (第二代国王) のモスクワ訪問以来、実に71年ぶりのことである。旧ソ連時代の1936年

から1990年まで国交断絶が続くなど、長期に亘り外交関係が希薄であった両国が、首脳会談において、重要分野であるエネルギー部門での協調を打ち出したことの意義は決して小さくないと見られる。ただし、両国が強調する「石油市場の安定化に向けての寄与」は限定的なものであり、むしろ今回の合意は政治的意味合いが強いとする見方が有力である (第2項にて詳述)。

2. サウジ・ロシアの石油・天然ガス協力合意の意義をどう考えるか?

今回の合意の背景・意義・影響等について、石油専門誌等で様々な見方が伝えられているが、ここでは、以下の4点について論じることとする。

- (1) 石油・天然ガス市場への影響
- (2) サウジの思惑
- (3) 政治的背景・意義
- (4) 石油関連ビジネスへの影響

<協力合意の内容>

9月4日に発表された共同声明によると、エネルギー関係の合意内容は、概略以下の通りとなっている（添付資料参照）。

- ▶世界の石油市場の安定と信頼性の確保に向け、連携・協調していく。
 - ・適正油価を維持するとともに、消費国の要求の充足を図る。
- ▶両国は、他の産油国とも連携することで、双方の利益のみならず、世界経済の発展への寄与を目指す。
- ▶両国は、国際エネルギー・フォーラム（IEF、本部リヤド）主導のもと、協調を進める。
- ▶石油・ガス分野での共同プロジェクト及び投資協力の推進。

(1) 石油市場への影響は限定的

上述のとおり、共同声明は、今回の合意の主要目的として「国際石油市場の安定」をうたっているが、実際に石油市場に与える影響は限定的であり「象徴的な」合意であるとの見方が強い。

確かに、世界最大の産油国サウジと原油生産第2位のロシアが石油市場安定に向けてのメッセージを共同で発したことは画期的であり、マーケットに与える心理的影響という点で一定の意義は認められよう。

しかし、今回の合意では、ロシアは自国生産量に関して具体的にコミット（生産量をOPECの生産枠増減とリンクさせる等）しておらず、「適正油価」の具体的なレンジにも言及していないとみられ、協定の実効性を疑問視する見方が多い。ロシアの石油産業は民営化が進んでおり、もはや、政府が自国生産量をコントロールできる体制ではなくなったことから、今回の協定が実質的に市場に与える影響は限定的であると見る見方が有力である。

(2) サウジは非OPEC諸国との関係構築に腐心

今回の首脳会談に当たっては、特にサウジ側が石油分野での協力合意を強く望み、積極的にアプローチしたといわれる。OPECの盟主的存在であるサウジは、増減産などのOPECの方針が効力を発揮するためには非OPEC産油国の協力が不可欠であるとの考えから、これまでも、2002年2月に石油分野での協力強化を巡りノルウェーとの石油相会議を実施し、メキシコとも市場安定を巡る協議を実施（2003年6月他）するなど、非OPEC諸国との関係構築に腐心してきた。今回、実効性に疑問があるとはいえ合意が実現した背景には、非OPECの代表格であるロシアとの間で強固な関係を構築できれば、結果的にOPECの価格支配力強化が図れるのではないかとサウジの思惑があったことは否定できない。

ロシア・サウジ両国政府のプレスリリース（または国営通信の報道）での石油・天然ガス関係の取扱いは大きく異なっており、両国のスタンスの違いを如実に示している。

ロシア外務省のプレスリリースは、「両国は、石油・ガス分野での協力に関する合意書に調印した。さらに、同分野での協力を進めるための共同ワーキング・グループ（ロシアエネルギー省及びサウジ石油資源省の代表者が参加）の設置に合意した」と事実関係を淡々と述べているだけである。

一方、サウジ国営通信（サウジ情報省の所管）は、事実上の最高指導者であるAbdulla皇太子の「国際石油市場の安定を目指すサウジ・ロシア両国の協調は大変重要である。公正な油価の実現を目指すOPECのイニシアティブをロシアが支持したことは称賛に値する」「サウジはロシアを石油分野での競争相手ではなくパートナーとみなしている」などのコメントを紹介し、今回の合意をサウジとして最大限に評価していることを強調している。さらに同通信は、皇太子が「ロシアのOPECへの加入については、ロシア自身が自国の利益に基づき決定すればよい」と述べたと伝えており、サウジがロシアのOPEC加入（実現性は低いと考えられるが）まで視野に入れて交渉に臨んでいたことが明らか

になった。

(3) 政治的意味合いが濃厚

石油分野協力合意を含む今回の首脳会談全体の評価としては、石油市場への具体的影響よりも、むしろ政治的意味合いが強いのではないかとの見方が有力である。共同声明では、首脳会談の成果として、「中東和平（ロードマップ）の実現」「イラク復興支援」「テロとの戦い」に向けての協調で両国が合意したことが挙げられているが（添付資料参照）、専門家は、真の政治的意義は、主に米国・サウジ関係に関わる以下のような点にあるのではないかと指摘している。

- ▶ サウジにとって、ぎくしゃくする対米関係の改善が最優先の外交課題であるが、一方で、米国依存一辺倒からの脱却を図るべく、米国以外の有力国とのパートナーシップの構築を模索しており、その代表国としてロシアが選択された。
- ▶ ブッシュ政権が進めるエネルギー面でのロシアとの関係強化の動きが米国のサウジ離れを加速させるとの危機感があり、サウジは米国に対する牽制の意味合いから、ロシアとの石油分野での関係構築を打ち出した。
- ▶ イラン核開発疑惑問題の解決に向けて、技術供与とロシアとの協議を通じて自らの政治力や努力姿勢をアピールしたい（＝同問題に強硬姿勢を取り続ける米国に対する得点稼ぎ）との思惑がサウジにあった。
- ▶ 米国議会やメディアによる「反サウジキャンペーン」が勢いを増せば、サウジに対する米国による武器供与が制限されるとの事態も予想されることから、サウジは今回の会議でロシアからの武器購入について打診した、との見方もある。
- ▶ チェチェンの過激派対策を進めるPutin政権にとっては、メッカ、メディナの2大聖地を抱えイスラムの盟主を自認するサウジと友好関係を築くことで、国内穏健イスラム勢力の反発を弱める狙いがある。

(4) サウジへの参入を狙うロシア企業にとっては好影響

今回の合意では、「(両国における)石油・ガス分野での共同プロジェクト及び投資協力の推進」がうたわれており、特にサウジでのビジネスへの参入を狙うロシア企業にとっては、好影響となるものと考えられる。

石油部門国営化後初の上流分野への外資導入プロジェクトとして注目を集めたサウジの‘Gas Initiative’は、RD/Shell, Totalとの契約分以外は事実上仕切り直しとなり、7月に新たに外国石油企業に対する入札説明会が開催されたが、説明会に参加したGazpromは、今回の協力合意を追い風として、ロシア企業として初のサウジ上流事業への参入を目論んでいる。

また、報道によると、今回の協力協定では、両国の企業が参加するJVの設立手続き簡素化で合意したと伝えられている。今年3月、サウジ企業Saudi Ogerと合併事業実施で合意したロシアのエンジニアリング会社Stroitransgaz (Gazprom子会社)には大きなメリットとなるとみられる。両社は首脳会談開催中の9月3日、戦略的パートナーシップ協定を締結した。Saudi Ogerは王室と緊密な関係を有するといわれる建設会社であり、今後、両社JV事業は早期具体化の可能性がでてきた。JVの事業対象候補としては、石化、海水淡水化等の分野が挙げられているが、特に、Saudi Aramcoが発注するパイプライン建設での契約の可能性が高いと見られる。

<添付資料> サウジ・ロシア共同声明

Joint Russian-Saudi Statement, September 4, 2003

On September 2-4, 2003 (5-7 Rajab 1424 AH), at the invitation of President of the Russian Federation Vladimir Putin, within the framework of strengthening the close relations between the Russian Federation and the Kingdom of Saudi Arabia, His Royal Highness Abdullah bin Abdul Aziz Al Saud, Crown Prince, First Deputy Prime Minister and

Commander of the National Guard of the Kingdom of Saudi Arabia, paid an official visit to the Russian Federation.

In the course of the talks held President of the Russian Federation Vladimir Putin and Crown Prince Abdullah discussed a broad range of problems of mutual concern, as well as ways for strengthening cooperation between the two friendly countries.

The Crown Prince of Saudi Arabia was also received by Chairman of the Government of Russia Mikhail Kasyanov. The distinguished Saudi guest held a meeting with Mayor of Moscow Yuri Luzhkov.

Attaching great importance to the issues of safeguarding security and stability in the Middle East region, the Sides agreed to cooperate closely with a view to achieving a just and lasting peace in the Middle East on the basis of the Resolutions 242, 338 and 1397 of the Security Council of the United Nations, the Land for Peace principle, the Arab initiative adopted at the Summit Conference in Beirut, and the Road Map plan. The Sides expressed support for the Quartet of international mediators, including in the establishment of monitoring of the implementation of all the stages of the Road Map. They spoke for the full realization of the international decisions pertaining to the Palestinian-Israeli conflict, and reaffirmed the right of the Palestinians to create a sovereign independent state with its capital in East Jerusalem. The Sides reaffirmed that, proceeding from the principle of a comprehensive and just settlement of the Arab-Israeli conflict, it is necessary to intensify the peace efforts on the Syrian and Lebanese tracks and to resume the talks in these sectors of the peace process from where they were suspended.

Russia and Saudi Arabia have been firmly and consistently advocating the preservation of the independence, sovereignty and territorial integrity of Iraq, and the Sides hope that Iraq's Interim Governing Council will become a step along the road to creating a lawful Iraqi government which will assume the elaboration of a Constitution reflecting the situation in the country and will ensure the independence, territorial integrity and national unity of Iraq; and also the equality of all its citizens.

Russia and Saudi Arabia favor reinforcing the role of the United Nations in resolving the Iraq problem and underscore the necessity of a significant participation of the international community in dealing with such matters as the building-up of the amount of humanitarian assistance, and the rehabilitation of the national economy and the social sphere.

The Sides expressed support for the idea of converting the Middle East region into a zone free of weapons of mass destruction, including nuclear.

Having discussed the threat which international terrorism poses to the world community, the Sides condemned all its forms and manifestations. They expressed their resolve to build up the struggle against terrorism in accordance with the Charter of the United Nations and international law, including collective efforts which are an effective means for countering and eradicating terrorism.

The Saudi Side expressed respect for and understanding of the initiative of the Russian Federation to expand its cooperation with the Organization of the Islamic Conference.

The Sides also examined the state of economic

relations between the two countries. Taking into account the big and diverse potential for economic cooperation between the Russian Federation and the Kingdom of Saudi Arabia, the Sides will promote the expansion of trade turnover and the encouragement of investment flows. It has been agreed to continue efforts for the comprehensive implementation of the General Agreement between the Government of the Russian Federation and the Kingdom of Saudi Arabia, of November 20, 1994. Satisfaction was expressed with the activities of the Russian-Saudi Intergovernmental Joint Commission on Trade, Economic, Scientific and Technical Cooperation. The Sides agreed on the need for coordination and cooperation in oil policy with a view to achieving the stability and predictability of the world oil market, maintaining an acceptable price range and satisfying the requirements of the countries importing energy carriers. That collaboration of the Sides, both on a bilateral basis and in a multilateral format, including with other producing countries, will be effected in the interests of Russia and Saudi Arabia and of strengthening the positive trends in the world economy. The Sides reaffirmed their readiness to continue their joint work directed to successful activity under the auspices of the International Energy Forum, the General Secretariat of which is in El Riyadh, paying special attention to the energy sector, including the implementation of joint projects and investment in the oil and gas industries.

An important moment of the visit was the signing by the Sides of the Intergovernmental Agreement on Cooperation in the Area of Oil

and Gas, the Memorandum on Cooperation between the King Abdulaziz City for Science and Technology and the Russian Academy of Sciences in the Scientific and Technological Field, the Memorandum of Understanding between the State Committee of the Russian Federation for Physical Culture and Sport and the Youth and Sports Body of the Kingdom of Saudi Arabia, and the Memorandum on Understanding and Cooperation between the Chamber of Commerce and Industry of the Russian Federation and the Council of Saudi Chambers of Commerce and Industry. The Sides agreed to continue work on improving the juridical base of bilateral relations by way of the subsequent conclusion of new agreements.

His Royal Highness Crown Prince Abdullah expressed great appreciation and deep gratitude to President of the Russian Federation Vladimir Putin, the Government and the friendly people of Russia for the warm welcome and hospitality accorded to His Highness and the accompanying delegation. His Royal Highness conveyed to President of the Russian Federation Vladimir Putin the invitation from the Custodian of the Two Holy Shrines of Islam King Fahd to pay a state visit to Saudi Arabia. The invitation was accepted with appreciation; the date for the visit will additionally be arranged.

Source: Ministry of Foreign Affairs, Russia Federation

(担当：猪原 渉)